

【山 域】伯耆大山
【場 所】鳥取県
【日 時】4月16日(土)
【コース】奥宮-行者道-山頂-八号沢-奥宮
【天 候】快晴
【メンバー】石野・横小路・大塚・大倉

大山八合沢



カッ飛ばす、石野氏



山頂小屋と木道



先週確認した八合沢が気にかかり今週も大山に足を運んだ。前は裏大山、今回は表大山とその雪付きの様子が解り来年への遊びのエリアがまた広がった。

大山は姫路から車で2時間、裏も表もピークハントするのに3時間もかからなく滑降バーンが多数あることに驚きである。2-3日もキャンプを張っていればブナ林に囲まれて縦横無尽に堪能するまで滑れるだろう。



朝日を背に素晴らしい・・・伯耆富士大山



六合目避難小屋

佐陀川沿いのPを7時スタートで奥宮をくぐり行者道のブナ林へと入っていく。奥宮あたりから雪がまだ残っている。元谷から見渡す大山北壁はGWの酒沢から見上げる穂高連峰のようである。南壁は上高地から見上げる穂高連峰、溝口ICからは富士山と、鳥取の大山ここにあり！と多いに楽しませてくれる。

それにしても先週といい今日も最高の山日和りである。曇一つない真っ青な空に暖かな日差しと春のそよ風によってブナの小枝から新芽がのぞき始めている。幹も息吹始めて周りの雪を溶かし始めている、ふもとでは春満開で桜が舞い散っているが、ここはまだ冬から春に移り変わろうとしている真っ最中である。

さわやかな汗をかきながら行者尾根に直登して夏道に合流し、まだ雪に半分埋まった六合目避難小屋を過ぎて八合目にささしかかる。時間も早いので雪の条件のいいときに空身で一本滑ろうとなり、ザックをデポし



大山奥宮



行者尾根のブナ原生林



登り返し



別山カールをトラバース



ノドのデブリ地帯

て急斜面の出だしからギャラリーの視線を浴びながらカッ飛んで行く。40半ばの大倉氏、膝が治ったようでトップに躍り出ていつもの弾丸のように飛んでいってしまった。そして60に手が届く石野・横さん、50を回った私、皆すでに爺やになっているが負けじとカッ飛んでいく。ノド上部で登り返しである。4人ともハワイアイアンマン経験者で持ち前の体力でガンガン登り返す。あっと言う間に先行者に追いついてしまう。先行者はスキーを杖代わりに交互に突きながら登っているが、我々はハーネスで腰から引っ張りストックを突きながらなのでガンガン登れる。ああ快汗、快感(^.^)。

別山沢はノド上部から完全に雪がなくガラガラの地肌を見せている。別山沢のカール上部に板をデポして弥山山頂へと足を運び、大休止タイム。山頂付近のキャラボク帯は雪溶けもすすみ夏道同様に木道歩きである。

帰りに弥山沢を覗くが雪割れがひどく今にも雪崩れそうであった。別山沢カールをトラバースしてあっと言う間に八合沢の出だしまで滑り込む。再びギャラリーの視線を浴びながら八合沢を小刻みにターンを刻んで下部のノド部分へ・・・、心配していたノド部分はデブっていたがこの春の陽気でエッジもはじかれる事なく元谷へ滑り込めた。幾度みてもここから見渡す北壁は素晴らしい眺めである。

帰路は榊水原から大山スカイラインを通り一ノ沢、二ノ沢、三ノ沢の取り付きを確認して湯原温泉で疲れを癒した。



横さん



大倉氏



私